

Begleiten 106号



2019.2.10

◆巻頭言◆ 荒草の中のタンポポのように

ベグライテン代表世話人 関根 和彦

まるで初夏を思わせるような日があったかと思えば、今日はすっかり真冬日、みなさま、いかがお過ごしでしょうか？

毎日、仕事や家事に追われて、文字通り夢中になって生活しているわけですが、一瞬目を転じて世界の様子を見てみると、世界は激動の時代に入ったように思われます。

大勢の難民が他国に逃れ、欧米には、これに反発した受け入れ側の右派勢力が伸長して、政治・社会が不安定化しています。アメリカファーストを唱えるランプ政権は、各国と貿易・経済摩擦を引き起こし、軍事的にも各地で対立を深めています。北東アジアでは米朝会談が粘り強く模索され、朝鮮半島の非核化が追求されています。

隣国では非核化への道が模索され、平和への兆しがあるにもかかわらず、わが国の政府・自民党は核兵器禁止条約にも背を向け、アメリカから大量の兵器を買い込んで軍備を強化し、憲法を改定して海外で戦争ができる国にしようとしています。平和であった70数年を清算して、再び武力を背景に世界政治に乗り出そうというのです。

このような状況で、ベグライテンも行き方を問われているのではないのでしょうか？

ベグライテンは、2001年7月に上智大学コミュニティ・カレッジの講座「死への準備教育～ホスピスボランティアとは？～」(コーディネーターは、A・デーケ

ン先生)の受講生が立ち上げた勉強会です。当初は、終末医療や介護などにおけるケアのあり方を学んでいたのですが、学ぶ対象が子どもたち・若者たちのいじめ、引きこもり、自殺、貧困と広がる中で、制度や行政、政治も学ばなければならないと気づき、山脇直司先生(当時東大教授、専門は公共哲学)のお導きもあり、2010年から公共哲学をも学び始め、ケアの思想の講演会と公共哲学の講演会を交互に開催して学び始めたのです。とても素晴らしい、平和な営みであったと思います。

しかし、2014年7月の憲法9条の解釈変更、2015年9月の安保法制強行採決により、戦争への準備はほぼ整い、いよいよ今年は準備の総仕上げ、憲法を改定しようというのです。例えて言うなら、戦争という大津波が日本に襲い掛かろうとしているのです。

大津波が襲ってくるのに、平時の営みではいけないのではないのでしょうか？

ケアの哲学も、公共哲学も、戦争と平和については、膨大な知識と経験を持っているので、これを学び身につける必要があるのではないのでしょうか。まずは、戦争について、自分の意見をしっかり持ち、表現できるようにしなければならないと思います。ベグライテンでの学びも、今年は戦争と平和を中心テーマにしていきたいと思います。

もちろん行動も大事です。国会や首相官邸に対する抗議行動も大切ですが、何よりも大切なのは、私たちの日常生活における行動だと思います。家族や友人・

知人、隣人に対する話しかけ、これが何より大切だと思えます。これが、何より苦手という人も多いと思いますが、そういう人は自分と遠い人から始めたらいかがでしょうか。街頭あるいは個別訪問での署名活動、事務所からの電話作戦。これに慣れてくると、身近な人にも話せるようになりますよ。

署名活動のコツは、相手の話をよく聞くということだと思います。最初に話しかけるのはこちらですが、相手は何か言ったら、黙って聞く。一言、二言聞いたら、さらにそのことについて聞いてみる。まず、ほとんどの場合、署名してくれます。たとえ署名が得られなくとも、そのやり取り（対話）が大切なのだと思います。

もっと、いろいろ書きたいのですが、そろそろ締

め括ります。ベグライテンは、2017年9月以来、下記の二つの署名を取り上げ、取り組んでいます。この二つの署名は、安倍大津波を防ぐうえで、とても大切だと思いますので、みなさまも全力を挙げて取り組んでくださいますようお願いいたします。

今年も、署名運動で、尽力しましょう！

①ヒバクシャ国際署名（ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名）

提出先：国際連合。2020年までに、全世界で数億名の署名を集める予定。

② 安倍9条改憲NO！ 憲法を活かす全国統一署名

提出先：内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長。3,000万人になるまで継続する。

【目次】

◆巻頭言◆	荒草の中のタンポポのように（代表世話人 関根和彦）	1
◆開催のご案内◆		
公共哲学を学ぶ会	2月例会「アジアの平和の模索—軍事では平和は確保できない時代—」	3
公共哲学を学ぶ会	3月例会「草の根の運動が歴史を変えた—被爆者運動が訴えること—」	4
連続講座	公共哲学入門「より良き公正な社会のために」（第4回）	4
連続講座	ケアの哲学入門2018（第4回）	5
憲法カフェ@四ツ谷	（第3期第5回）自民党改憲案を学ぶ（その4）—統帥権て なあに？—	5
◆報告・感想◆		
11月例会	公共哲学を学ぶ会「当面する政治課題にどう取り組むか？」	6
12月例会	ミシュカの森 Part1「限りなく透明に近い居場所」・Part2	7
1月例会	オープンダイアログ・ワークショップ「みなさんの疑問にお応えします」	9
連続講座	公共哲学入門 第2回「メディアと民主主義 世論操作か世論形成か」	11
憲法カフェ@四ツ谷	11月例会・12月例会	13
施設訪問	「暮らしネット・えん」	13
施設訪問	「がん研有明病院緩和ケア病棟」	14
◆その他の開催予定◆		16
◆編集後記◆		24

◆開催のご案内◆

◇公共哲学を学ぶ会 2 月例会◇

アジアの平和の模索

—軍事では平和は確保できない時代—

『核の傘』なんて、存在しない。核の傘を前提にする日本の安全保障政策は、誤っている。」と述べる孫崎享先生。では、日本の安全保障はどのように確保していけばよいのか？ 2 月例会は、孫崎先生のお話を伺い、参加者と意見を交換したいと思います。

~~~~~

第二次大戦以降、ミサイルと、核兵器の開発で、いかなる国も軍事では国を守れない状況が生み出されました。よく、ミサイル防衛と言われますが、高速で、かつ最終目的地がわからないミサイルは、迎撃することはできないのです。その中で戦争を回避する安全保障上、究極の形は「相互確証破壊戦略」(注)です。残念ながら、日本では右派も左派もこの現象を学んできませんでした。

その中でどうするか。

相互依存関係を促進し、「憎しみ合う」ことより、協力で利益を出すことを人々が納得する社会を作り出すこと、戦争の源になりがちな、領土問題を解決することです。実はこの二つを実現したのはドイツとフランスです。今日、ドイツとフランスが戦争するとは誰も思っていませんが、それはたまたまそうなのでなく、戦争をしない体制を意図的に作ったのです。そして、この関係は独仏に見られるだけでなく、ASEAN も同じ流れの中にあります。残念ながら東アジアではこうした動きは実を結んできませんでした。

**【日 時】** 2019 年 2 月 16 日(土) 14:00~16:30

**【場 所】** 上智大学 6 号館 4F 403 教室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

(JR 中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線/  
四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩 5 分)

[http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/  
accessguide/access\\_yotsuya](http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya)

**【講 師】** 孫崎 享先生

(東アジア共同体研究所所長。元外務省国際情報局長)

**【略 歴】** 1943 年旧満州国鞍山生まれ。1966 年東京大学法学部から外務省入省。英国、ソ連、米国、イラク、カナダ(公使)勤務を経て、駐ウズベキスタン大使、国際情報局長、駐イラン大使を歴任。2002 年より防衛大学校教授。この間公共政策学科長、2009 年 3 月退官。

**【著 書】** 『日米同盟の正体』『戦後史の正体』『日米開戦の正体』『日本の領土問題—尖閣・竹島・北方領土—』『小説外務省—尖閣問題の正体』『21 世紀の戦争と平和』『日米開戦へのスパイ』『アーネスト・サトウと倒幕の時代』等。

**【参加費】** 1,000 円(学生/障害・生保のある人 500 円)

\*終了後、懇親会を予定しています。

(各自が飲食した分をお支払いいただきます。)

**【申込み】** 事前申込みは不要。

どなたでも参加可能です。

**【主 催】** ベグライテン <http://begleiten.org/>

<https://www.facebook.com/begleiten2>

ミシュカの森 <https://www.facebook.com/mforest>

**【共 催】** 上智大学 哲学科

**【問合せ】** 090-9146-6667 (関根)

[ANA71805@nifty.com](mailto:ANA71805@nifty.com)(入江)

(注) 相互確証破壊とは

[出典: フリー百科事典『ウィキペディア』]

相互確証破壊(そうごかくしょうはかい、英: Mutual Assured Destruction, MAD)とは、核戦略に関する概念・理論・戦略。核兵器を保有して対立する 2 か国のどちらか一方が、相手に対し核兵器を使用した場合、もう一方の国が先制核攻撃を受けても核戦力を生残させ核攻撃による報復を行う。これにより、「一方が核兵器を先制的に使えば、最終的に双方が必ず核兵器により完全に破壊し合うことを互いに確証する」ものである。理論上、相互確証破壊が成立した 2 か国間で核戦争を含む直接的な軍事的衝突は発生しない。例えば、米国とソ連の間に相互確証破壊が成立した冷戦後期以降、この 2 か国間では直接的な軍事力行使は行われていない。

.....

## ◇公共哲学を学ぶ会 3 月例会◇

### 草の根の運動が歴史を変えた ー被爆者運動が訴えることー

【講 師】和田征子さん

(日本原水爆被害者団体協議会 事務局次長)

【略 歴】1943 年 長崎市で生まれる。1945 年 1 歳 10 か月で爆心地から 2.9km の自宅で被爆。2015 年 NPT 再検討会議の要請団としてニューヨーク行動に参加。2017 年 6 月ニューヨーク国連本部での核兵器禁止条約交渉会議に参加し発言。2017 年 11 月バチカン法王庁での「核兵器のない世界と統合的軍縮への展望」と題する国際会議に招待され、発言。ローマ教皇と謁見しヒバクシャ国際署名を手渡して賛同を依頼。

#### <講師からひとこと>

「生きていてよかった！」と涙ぐみながら語ったのは長年寡黙に核兵器の廃絶のために運動に関わってきた 85 歳の男性の被爆者でした。2017 年 7 月 7 日核兵器禁止条約が国連で採択されたニュースに、平均年齢 81 歳を超えた被爆者の多くが感じた思いでした。核兵器禁止条約は、簡単にできたものではありません。原爆投下直後から被爆者がおかれた立場、全国各県の原爆被害者の協議会である日本被団協の設立、国内外多くの支援者の方々と共に続けてきた核兵器廃絶の運動、語るたびにあの日に連れ戻されてしまう証言活動は、世界の誰にも自分たちと同じ体験をさせてはならない、という強い思いからでした。

今、この世界において核兵器禁止条約はどのような意味があるのでしょうか。その発効のために、私たちに出来ることをご一緒に考えましょう。

【日 時】2019 年 3 月 16 日(土) 14:00~16:30

【場 所】上智大学 2 号館 4F 410 教室

〒102-8554 千代田区紀尾井町 7-1

(正門・東門から入り図書館と講堂の間の坂を下る)  
(JR 中央線・東京メトロ 丸の内線 南北線四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から 徒歩 8 分)

【参加費】1,000 円(学生/障害・生保のある人 500 円)

\*終了後、懇親会を予定しています。

(各自が飲食した分をお支払いいただきます。)

【申込み】事前申込み不要。どなたでも参加可能です。

【主 催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/>

FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

【共 催】上智大学 哲学科

【問合せ】090-9146-6667(関根)

## ◇連続講座 公共哲学入門

### より良き公正な社会のために◇

(第 4 回)

#### 共生社会の実現のために

#### ～ケアと公共哲学をつなぐ～

公共哲学は、「より良き公正な社会を追究しつつ、現下で起こっている公共的問題(public issues)を市民(the public)と共に考える実践哲学」と定義できます。第 4 回は、ベグライテンの大きなテーマである「ケア」と「公共哲学」をどのようにリンクし相互に補完させるかについて、共生社会という観点からお話しし、それをふまえて皆様と公共的対話・質疑応答を行いたいと思います。(配布資料あり)

\*終了した第 1~3 回のテーマは以下のとおりでした

第 1 回 立憲主義と人権～その歴史と現状を皆様と共に考える

第 2 回 メディアと民主主義～世論調査か世論形成か

第 3 回 権力と正義～その正当性と内実を吟味する

【講 師】山脇直司先生(星槎大学副学長)

【略 歴】1949 年 青森生まれ。一橋大学経済学部、上智大学大学院哲学研究科を経て、1982 年ミュンヘン大学哲学博士。1988 年 4 月から東京大学教養学部准教授・1993 年 4 月から 2013 年 3 月まで同教授、大学院総合文化研究科教授。2013 年 4 月以降、通信制の星槎大学・大学院教授、現在、同副学長、東京大学名誉教授。

【著 書】単著『公共哲学とは何か』(ちくま新書、2004 年)、『グローバル公共哲学』(東京大学出版会、2008 年)、『社会とどうかかわるか』(岩波書店、2008 年)、『社会思想史を学ぶ』(ちくま新書、2009 年)、『公共哲学からの応答：3.11 の衝撃を受けて』(筑摩選書、2011 年)

編著 『科学・技術と社会倫理』（東大出版会、2015年）、『教養教育と統合知』（同、2018年）、『共生社会の構築のために：教育、福祉、国際社会、スポーツ』（星槎大学出版会、2019年）など。

【日 時】2019年3月9日（土）14:00～16:30

【場 所】上智大学6号館 5F 503教室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

[http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access\\_yotsuya](http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya)

【参加費】1,000円（学生/障害・生保のある人 500円）

\*終了後、懇親会を予定しています。

（各自が飲食した分をお支払いいただきます。）

【申込み】事前申込み不要。どなたでも参加可能です。

【主 催】ベグライテン <http://begleiten.org/>  
<https://www.facebook.com/begleiten2>

【共 催】上智大学 哲学科

【問合せ】090-9146-6667（関根）

## ◇連続講座 ケアの哲学入門 2018◇ （第4回）

【日 時】2019年3月24日（日）13:30～16:30

【場 所】上智大学6号館 2F 203教室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

【講 師】崎川 修先生

【内 容】第1回（2018年3月18日 丹木博一先生）、第2回（2018年6月17日 宮子あずささん）、第3回（2018年8月5日 永田英子さん）、第4回（2018年10月6日 秋山正子さん）のお話を受けて、ケアとは何かを深めていただく予定です。3月上旬に、ベグライテンのML、HP、FBに詳細なお知らせを掲載します。

## ◇憲法カフェ@四ツ谷◇

（第3期第5回）

自民党改憲案を学ぶ(その4)

－統帥権て なあに？－

私たち国民の熱心な運動と野党の結束のおかげで、自民党と安倍政権は今年の臨時国会での改憲案提示

を断念せざるをえませんでした。しかし、安倍自民党は、決して諦めたわけではなく、今年の通常国会で強引に改憲手続きを進めようとしています。

私たちは、自民党が憲法審査会で検討してもらおうと言っている改憲案をもう一度勉強し直しているところですが、その第4回目として、いわゆる「統帥権」の問題を取り上げます。なぜ安倍首相が9条改定に固執するのか、それは戦前の統帥権が欲しいからだと言われています。統帥権とは何か、それは現行憲法下の自衛隊とどこが違うのか、みんなで考えてみたいと思います。もともと初心者向けの勉強会です。

ご家族、友人を誘ってご参加ください。SNS、MLなどで、宣伝して下さるようお願いいたします。

【日 時】2019年2月28日（木）19:00～21:00

【場 所】東京法律事務所 1階会議室

【アクセス】JR 四谷駅・四谷口前

**\*下記の地図参照**

（しんみち通り入口横のファミリーマートの隣）

TEL:03-3355-0611

<http://www.tokyo.law.gr.jp/about/location.html>

【提題者】岸 松江 弁護士（東京法律事務所）

森 正樹 さん（ベグライテン世話人）

【司 会】関根 和彦 さん（ベグライテン世話人）

【参加費】1人 500円＋印刷代（100円程度）

（参加費は提題者への謝礼）飲み物は各自持参。

【連絡/問合せ先】大塩：veu03273@nifty.ne.jp

関根：090-9146-6667



# ◆報告・感想◆

## ◇公共哲学を学ぶ会 11 月例会◇

### 当面する政治課題にどう取り組むか？ ー市民連合からの提案ー

【日 時】2018 年 11 月 17 日(土) 14:00~16:30

【講 師】中野晃一先生 (上智大学国際教養学部長)

【主 催】ベグライテン・ミシュカの森

【共 催】ケアと公共を学ぶ会

『平家物語なら「おごれる者久しからず」なのに、安倍首相は変わらない。以前、日本の首相はコロコロ変わっていたのに……』(私の日頃のストレス)

例会当日に香港出張から帰国したばかりの講師は「疲れている」と言いながらも、痛快な語り口で、忌憚なく話された。「政治の劣化」「在庫一掃内閣」「安倍さん以上に麻生さんが残っている」等々。講演中に飛び出す的を射たフレーズがストレスのたまった私の溜飲を下げてくれた。他の参加者も同様だと思われる。だが一方で、現状の危うさを痛感した。

#### わが国の現状は資金不用の、中身の無い アイデンティティの政治

講演前半には、日本の政治の流れが総括された。

##### 1) 利益誘導型の政治→新自由主義的な改革の政治

田中角栄に象徴される利益誘導型の政治、つまり親分の下にいれば利益の分配が受けられる派閥、族議員が台頭する政治が行き詰まり、新自由主義的な改革の政治へと変遷した。鈴木内閣の「増税なき財政再建」、小泉内閣の「聖域なき構造改革」のもと、国鉄の民営化、規制緩和など、行財政改革が実施され、小選挙区制が導入された。つまり、資金の循環が滞り、弱者切り捨てが行われ、少数の利益を尊重する寡頭支配を強化する体制が構築されたのである。

言い換えれば、行財政改革で、政治主導、地方省庁の再編、官邸機能の強化が図られ、官僚の地位が低下し、政治家のトップダウンに歯止めがかからなくなった。ここで、安倍内閣の暴走は用意されたとみる。

##### 2) 新自由主義的な改革の政治→

##### アイデンティティの政治

1990 年代後半~2000 年代、改革の政治はアイデンティティの政治に変わっていった。改革を「良し」とする政治は今も継続しているが、特に資金の循環からはずれた地方では支持されず、もはや全国的には通用しなくなった。そこで現れたアイデンティティの政治とは、中身がなくても、雰囲気を作り出せばよいというものである。

例えば、首相の靖国神社参拝である。首相就任前後に参拝したとは聞かないので、小泉氏の発言「本人のこころの問題」ではないのは明らかである。その目的は、中国や韓国から非難されることによって、国内のナショナリズム、一体感を惹起することにある。

したがって、現状では、与党は政策を打ち出さなくても、野党をおとしめていけばよいのである。今の若者は安倍政権しか知らないのである。選挙前には「消費税導入の先送り」「待機児童なし」など、有権者の機嫌をとっておけばよい。選挙にさえ勝てば、「有権者に支持を得た」と、その後はやりたい放題ができる。

#### 野党をとにかく一本化させ、棄権者を減らし 選挙に勝ち小選挙区制を変える

この現状で、市民はどうすればよいのか。問題のある小選挙区制を変えるには選挙に勝つしかない。そのためには「野党のリサイクル」である。信用できない野党であっても、とにかく一本化してもらう必要がある。そのうえに、多くの有権者に選挙に行ってもらい、一本化された野党候補を勝たせなければならない。

恐ろしいことに、安倍内閣は 3 回の選挙に勝っているものの、得票数をみると、最低であった麻生内閣の得票数を超えていない。野党を支持した有権者は与党支持に変わったのではなく、政治にウンザリして棄権しているだけなのである。政治に対する不信から選挙の棄権者が増えれば、それだけで与党の勝利となる。与党もわかっているのに、なりふりかまわず、中身の無い与党に有利なムードを作りだそうとする。

利益誘導型の政治では改憲は必要なかったという。現行の憲法のもとで、やりたい放題できるからだ。グローバリズムのなか、米国の圧力から集団的自衛権の行使もできるようになった。安倍首相は「改憲しても

何も変わりません」と言うが、この発言は全くの偽りである。憲法に自衛隊を明記すれば、軍事費の投入が正当化できる。だが、防衛省が記されていない憲法に自衛隊が明記されるのは非常に奇妙なことである。

また、与党は、分裂している野党の1党でも改憲案に賛成してもらいたいという。それは、現状でも人数的には強行採決は可能であるが、1党でも野党が賛成すれば「強行採決」という表現は使用できないからだ。

ただ、改憲には国民投票が必要なので、そのロシアンルーレットのようなリスクから、与党は慎重にならざるをえない。改憲に反対するには、理由がどうであれ、投票で改憲に否(×)をつければよいだけである。反対理由が一致する必要はない。

講師は、アイデンティティの政治の次に連帯の政治を見込んでいる。たとえば「Me Too」運動である。市民が連帯していけば、まだ、希望はありそうだ。

(文 森永智子)

.....

## ◇ミシュカの森 2018◇

### Part 1

#### 限りなく透明に近い居場所 ～アジールと隠れ家～

【日 時】2018年12月9日(日) 14:00～16:00

【ゲスト】東畑 開人先生(心理学者)

【場 所】芝コミュニティはうす

【主 催】ミシュカの森実行委員会(暮らしのグリーンサポートみなと、ナチュラルシフト ウェルネス研究会、ベグライテンほか)

### Part2

#### 共感・共苦のコミュニティの形成を目指して

【日 時】2018年12月22日(土) 14:00～16:30

【ゲスト】島 蘭 進先生

(宗教学者。上智大学グリーンケア研究所長)

山崎浩司先生

(信州大学医学部保健学科准教授)

【場 所】上智大学中央図書館 9F 921 会議室

【主 催】ミシュカの森

上智大学グリーンケア研究所

昨年は、年末に、Part1とPart2と2回、開催しました。Part1では東畑開人先生、Part2では島蘭進先生、山崎浩司先生をお招きしました。共通するテーマは「居場所」。事件で「家族」と「住まい」「地域」という「居場所」を失った私にとって、「居場所」の再生と創出は向き合ってきた課題なのですが、まず直面したのが「スティグマ」の問題です。「スティグマ」とは「烙印」のこと。犯罪被害者遺族という「スティグマ」とどう向き合うか？

昨年の「ミシュカの森」では、冒頭で、30分のTBSドキュメンタリー「ザ・フォーカス 強いられた沈黙から悲しみの水脈へ」の冒頭をご覧いただき、「スティグマ」の問題を考えるきっかけに致しました。

続いて、当事者研究の第一人者、熊谷晋一郎先生の「スティグマ」の解消のためには「当事者の語りに触れること」という指摘を紹介しました。必ずしも自分のためとも言えない「自己語り」を続けていく意味が、熊谷先生の言葉から腑に落ちたからです。

私は「犯罪被害者遺族のヴィクティム・ストーリー」という「ドミナント・ストーリー」に違和感がありました。敢えて、「再生を模索する一個人」としての「オルタナティブ・ストーリー」を提示したいという思いがあって続けてきた「自己語り」「語り直し」の営み。この営みが、社会的孤立を深め、援助希求行動への妨げとなる「スティグマ」の解消に寄与するという熊谷先生のお言葉はたいへん励ましになったことをお伝えしました。

おかげをもちまして、両日ともに、盛会でした。皆さまのご支援の賜物と感謝しております。昨年の「ミシュカの森」の様子は、「報道特集」内のニュースが、上智大学の共催、協力を得たことも含めて伝えてくれました。

「……入江杏さんは、家族を亡くした人などの悲しみを支える“グリーンケア”と呼ばれる活動を続けていて、悲しみから目をそらさず向き合うことの大切さ

を強調しました。」

「たとえ悲しみが解消しなくても、日常的な関わりのなかで、どうやって悲しみに寄り添い、生き続けていくかを探るプロセス、悲しみとの日常的な関わりがグリーフケア」

「追悼の会には上智大学グリーフケア研究所の島菌進所長も参加し、ともに悲しむ人たちの存在の重要性や悲しみを分かち合う場が求められていることについて議論を深めていました。」

数ある報道のなかで“グリーフケア”に触れてくださったのはこのニュースだけでしたが、報道の「ドミナント・ストーリー」から「オルタナティブ・ストーリー」を読み取っていただけたらと思います。

さて、以下は「ミシュカの森 2018」の参加者のお言葉をご紹介します。最初にご紹介する酒井正昭さんは「ミシュカの森 Part1」のゲスト、東畑開人先生に学ぶ白金心理学クラブで一緒しています。

#### ★「ミシュカの森 PART 1&2」

とても参考になりました。翌日には上智大学で追悼シンポジウム「石牟礼道子 死者と魂」にも参加しました。石牟礼さんの文学が主題でしたが、前日、世田谷事件の被害者と非常に親しい立場の入江さんの話を聞いた私は、お父さんが水俣事件の被害者であり、現在水俣病資料館の語り部である吉永理巳子さんの話に惹かれました。……

例えば突然起こった事件、出来事が大きく当事者の心的状況や人間関係を変えているのに、残された人たちはそれまでの信念や思考、慣習などにとらわれ苦しむ。入江さんはスティグマと称し、お母さんの苦しみを述べた。吉永さんはお父さんがチッソの社員で、会社の病院に入院した。「漁業とチッソの企業城下町だった水俣で、犯人がチッソとわかって認識するまでが長い道のりで、父は健康を維持するために昔からの教えを守り魚を食べ続け、命を失った」と声を落として話された。

2 点目は事件発生後に長い沈黙の期間を過ごす。入江さんは 6 年という。吉永さんは 40 歳まで何もどこへも話せなかったという。お二人ともこれまでの考え方をまといながらも、不自然、満たされないものを感じ葛藤の中で過ごしていた時期のように見える。その

うちに出会うものがあり、その助けを借りながら、自分自身の再構成をはかり新しく生きる道を探す。

入江さんは心理学や先生たちとの出会いを通じて、犯罪被害者の親族というイメージからの脱皮を図り、多面的な活動を行う。吉永さんは石牟礼さんとの出会いが決定的という。石牟礼さんがお漬物やお料理を出してくれながら話すときのことを話した吉永さんが一番楽しそうな顔をしたのが印象的です。石牟礼さんや仲間たちとの語りを通じて、父は水俣病でなくチッソと国が主犯である水俣事件の被害者であることを認識するようになる。そして、語り部となった。父は不注意や不摂生で病に倒れたのではない。チッソと国が起こした事件の犠牲者だということを訴えるために語り部となる。喪失体験の話で必ず出てくるのが、亡くなった人との会話である。「死者と魂」と題する石牟礼文学の特徴が最も現れるところだろう。

次にご紹介するのは、翻訳家の赤坂桃子さんの Twitter です。若松英輔さんのご縁から知己を得た赤坂さんはドイツ語・英語翻訳者としてご活躍です。

#### ★シンポジウム「石牟礼道子 死者と魂」@上智大学

水俣病資料館語り部、吉永理巳子さんのお話が響いた。患者家族の吉永さんは、水俣病事件が発覚したのちも、水俣湾の魚が危ないとは知らされず、漁師は貧しいからあんな病気になった等と謂われのない差別を受けた。早く忘れたいと 40 年間沈黙しても、何も変わりしなかった。しかし、『水俣の啓示』（不知火海総合調査報告）を読んで事件の全体像がわかってきたとき、「辱められたままで終わりにしたくない」と考え、自分の体験を語り始めた。

それを聞いて、入江杏さん（世田谷事件被害者家族）が述べていた「沈黙を強いるメカニズム」のことを思った。入江さんの母上が、家族の将来を考え、事件の被害者家族だということを絶対に口外するなどおっしゃったという話だ。しかし、入江さんは事件後数年を経て、すばらしい人生を生きだした妹さん一家がいたのだ、ということ語る道を選んだ。いろいろ考えこんでいるうちに、気づけば石牟礼道子さんの本をまた何冊か買ってしまった。帰りのリュックの重かったこと。

（文 入江 杏）

.....



# ◇オープンダイアログ・ワークショップ◇

## みなさんの疑問にお応えします

【日時】2019年1月27日(日) 10:00~17:00

【講師】森川すいめい先生

(みどりの杜クリニック院長 精神科医)

岩本雄二さん

(ゆうりんクリニック、精神保健福祉士)

【会場】上智大学 中央図書館 9F 921 会議室

【参加費】2,000 円

【主催】ベグライテン・ミシュカの森

【共催】ケアと公共を学ぶ会

### <参加者の感想① 梁田貴之さん>

日本の精神医療は、封建時代の座敷牢の延長であるかのように精神障害者を病院に閉じ込めてしまっている割合が大きく、人権面で問題が多いと国際的にも指摘されている。障害者を地域に受け入れるようになっているヨーロッパ諸国などに比べかなり遅れていることは間違いない。そのようななかで、フィンランドの先進事例として紹介されたのが「オープンダイアログ」だ。

医師-患者のタテ関係の診察、診療ではなく、当事者、複数の医師などファシリテーター、家族が5人程度で車座になり、患者が安心して話せるようなルール、技法によってインタビューを重ねる療法だ。「患者のいないところで患者の処遇について話さない、決定しない」というところが肝であるように受け止めた。これが、減薬でも、治療効果や再発抑止でも驚くべき成果をあげている。

これについて第一人者の一人、森川すいめい医師、岩本雄次氏(精神保健衛生士)の二人が進める、日曜日の午前10:00~17:00とたっぷり時間をとった一般向けのワークショップが、ベグライテンの月例会として開催されたので参加した。

一日のプログラムは講義的なパート、5人ずつの小さな車座になったの体験などを組み合わせて、あっと

いう間の時間だった。いちばん印象に残ったのは、最後に予定の時間を大きく上回って行われた、2人の講師と参加者1人による3人が聞き手、参加者3人が当事者と家族の役を演じたロールプレイを見せていただいたことだ。

この最後の部分、内容を決してオープンにしてはいけないという約束なのでご紹介できないが、「迫真」といべきもので、長いモノログを決して遮ることのない専門家の捌き(さばき)を一同息を呑み見守った。

森川医師らが「オープンダイアログ」という新しい医療について啓発活動を続ける一方、わが国の精神医療全体は政治行政、また力を持つ業界人により旧態依然たる実態にある。この分野を改善するための、国民みな参加するオープンダイアログが必要ではないか。リベラル勢力、野党のいちだんと積極的な取り組みが求められる分野であるとも思った。

そもそも『患者のいないところで患者の処遇について話さない、決定しない』って、まさしく民主主義の問題で、国民、地域住民、野党とはまったく対話しないどころか情報を伝えない、公文書は改ざんする、頭数が多いのだからと何でも勝手に決めてやってしまうという安倍自民党政治に必要な治療方針であると思う。 [メーリングリスト投稿文 抜粋]

### <参加者の感想② 坂田伸子さん>

講師はゆっくりと優しく落ち着いた口調で進行の仕方等、会場の全員に聞き、講師2人向き合い良い策を相談し、また皆に話して決定を促した。最初は気付かなかったが、会そのものが、「今、ここを、中心に」オープンで、「参加者全員が大切にされる」オープンダイアログ(OD)のエッセンスで溢れていた。

午前の部は座学にて、ODの経緯を知る。

ODは、1984年8月にフィンランドの西ラップランドにあるケロプタス病院から始まった。1960年代精神疾患の方は話を聞かれることもなく精神科病院に住んできたが、本人のいないところで物事を決めるのをやめただけで、精神科病院の入院が40%減ったという。

ODの有名なアウトカム(1992~7年)は、81%が精神病状の残存なし、学業あるいはフルタイムの仕事に復帰、77%が抗精神病薬を使用せずに済んだ……とい

う成果に驚いた。

日本で日本の環境に合う OD が周知され実施されれば、数年後には、精神の病いで入院されている人も減り、近年、毎年3万人近い自死の方の数も激減するのでは、と期待が湧いた。

その後、映像にて、ケロプタス病院での OD の行われる部屋を観る。

次に OD を身体全体で感じるワークショップ。まず、完全に無言で机などを移動し、5人グループで輪になり話す場を作る（ケロプタス病院方式）。そして、①～④について1人ずつ話す(50分)

①自己紹介、②いきさつ(参加の経緯)、③期待すること(どのようなことを期待して来たのか)、ここまでで感じたこと、④フリートーク。

安心・安全に話すために、講師から「1人ずつ話す、聴くことと・話すことを丁寧に分けるから、コメントしない、話したくないタイミングのときは話さなくてもよい」とのアドバイスがあった。

当グループでは、無言での場作りに関して、目配せ・ジェスチャー等を有効に使ったことやそれにも増して言葉が使える便利さ・ありがたさを実感した……との声があった。しっかりと聞いて話すことで、情報交換、親交が深まり、外へランチに出かけるなど、思いがけない親睦というプレゼント……をいただいた。

午後の部では、ODに関する質疑応答が行われた。講師の苦労話や体験談、ODの内容に関する事柄(資料)、日本でのODの活動等、有意義な情報を伺えた。

特に、ODでは医師やセラピストもフラットな位置にあるが、医者として守られたり忖度されたりすることがあり、その環境(ヒエラルキー)を壊すことが大変だったという体験談は心に沁みだ。

講師紹介の際に、森川医師が「森川さん」と呼んでくださいと話された重みが再確認できた。そして、いかにこの会場の皆さんと同位置に居ることを大切にされているかが察せられた。

ワークショップ:Treatment meeting。参加者全員の要望を反映して希望する取組みに別れて Treatment meeting のロールプレイが行われた。当グループはモデルの Treatment meeting のロールプレイを見学した。

医師、セラピスト2人、相談者、その家族2人の計

6人が輪になり対話。ファシリテーター役は2人の講師が担い、他は参加者の協力でモデルの Treatment meeting が行われた。

Treatment meeting を通して「聞くことと話すことを丁寧に分けて丁寧に重ねる(様々な工夫、かたちがある)外に出てくる会話(外的会話)と、気持ちの中での会話(内的会話)を、大事にする。」“リフレクティング”の様子を観ることができた！ 相談者からは、専門職が、自分の話を丁寧に聴いてくれることへの安心感や信頼感が伝わってきた。相談者は、思いのたけを次から次へと話せていた。家族も相談者の悩みや思いを専門職同士の開かれた会話から客観的に知ることかでき、なんとか手助けしたいという思いが芽生えていた。次の Treatment meeting の機会を決めて、終了。

役割を演じる参加者の方の迫真の演技がすばらしく、惹き込まれ、あっという間に終了時間になった。

ロールプレイからのチェックアウト。「皆さんも、役から降りてください」。体験から外れ、「自分を抱きしめて自分の名前を呼んで自分を取り戻して」「隣にいる方とも、ハグして」と、講師の指示があった。役割から降りるハグ体験は、興奮をおさめ、温かい気持ちになり、心が浄化されていくような感覚を覚えた。

人は社会生活で様々な役割を担って生きているが、役割を降り休息したり自分を取り戻したりすることが精神衛生上とても重要だと体感した。仕事や学校、家庭、様々な役割で悩める方に OD 効果を期待する。

最後、全体で輪になって、講師が輪から抜け、感想等を話したい人がマイクで話す場が設けられた。参加者の自発的な発言が時間の許す限り続いた。どの発言も感動に溢れており、共感し、参考になった。司会者が区切らなければ、延々と続く勢いだった。

ODの目的、「対話の目的は対話。対話が続くことである」が遂行されていた。ODは発展途上であり、「自分たちの場所で、自分たちのやり方を見つけなければならない」というODのエッセンスをも知る。

自らの現場で OD を活用し出来ることは何か。ケアプランを立てる際の本人を中心とした担当者会議にて即役立つ取組みではないかと思う。

当方、所用で途中退場したが、『生まれてくれてありがとう』『生きていてくれてありがとう』とすべての人

に感謝したい気持ちが蘇って、胸中温かい思いで帰宅した。体感したODのアウトカム！会場での『大切にしていた』感の温かさと癒しが、私自身の中に今も続いている。 [メーリングリスト投稿文 抜粋] .....

## ◇公共哲学入門 第2回◇

### メディアと民主主義 世論操作か世論形成か

山脇直司先生のレジュメをもとにまとめてみました。概要はこのような感じです。

本日のテーマは、世論(public opinion)と公衆(the public)、その関係から生じる世論操作や世論形成に関する問題。

ある論争問題について公衆が有する意見や態度など一般的傾向が世論(public opinion)といわれる。世論調査で決定表明されることになる。がしかし、その世論は、社会を構成する成員個々の意見の総和であるとみるか、それを超えた力をもつ実体とみるかについて争いがある。

まずは基本的な用語について確認しておこう。そもそもメディアとは、コミュニケーション(意思疎通)の媒体のこと。マスメディアとは、新聞・テレビなどを通じて行われる大衆への大量の情報伝達(マス・コミュニケーション)のための媒体のこと。そして、「公共性」とは、広い意味では、社会一般に利害や正義を有する性質のこと。すなわち、「公益性」や「公正性」のほかに「公開性」や「共有性」をも含む概念。

アメリカのジャーナリスト・政治評論家 W. リップマンの基本的な考え方はこうだ。新聞・ラジオなどから情報を得る人々が、実は洞窟内の囚人のように、現実社会の実像ではなく、メディアによって操作された虚像を現実社会の実像と勘違いしているのではないか。メディアは、固定観念で左右される画一的なイメージによって、人々の意識を操作しているというのだ(詳しくは『世論』(W. リップマン、岩波文庫)を参照)。

正論を述べる公衆はもはや存在しない！という命題。その理由は、情報に接しているインサイダーと閉

ざされている外部のアウトサイダーとの情報格差(情報量の非対称性)がますます大きくなった今日では、適切な政治的判断力を持てる公衆(The Public)はもはや存在しえないという点にある。この点が、チョムスキーの観客民主主義批判とも類似する。今の日本でも当然問題になる論点だ。

この点、ジョン・デューイの公衆蘇生論が解決策を模索している。リップマンの民主主義批判を評価しながらも、そのエリート主義を批判、新たな公衆論を提示した。

教育哲学者でもあるデューイは、民主主義を、多数原理としてではなく「結合されたライフスタイル(a mode of associated living)」と定義。自己自身の行動を他の人々の行動に関連付けて考えるライフスタイル(=民主主義)を教育によって身に付けた人々が、階級・民族・国家・領土などの障壁を越えて広まることを、理想的な社会の姿とした(『公衆とその諸問題』筑摩学芸文庫)。

対話や教育により、大きな社会(great society)での「大きなコミュニケーション(great community)」を創出する。個人一人ひとりが、能動的なライフスタイルで公共的な問題を的確に捉え、その問題解決に向けて他者とコミュニケーションできるような「公衆(the public)」となることを理想とした。

しかし、その後の歴史的事実の下では、デューイの見方は、1929年大恐慌以降リアリティを失う。他方、リップマンの主張は、ドイツのナチズム、殊にゲッペルスによりリアリティを増す(参考として映画「ゲッペルス」)。

戦後のリップマンはこう考えた。「言論の自由」それ自体が目的ではなく、公共的作法(civility)に基づき「真実を発見する」という希望や意思からのみ意義がある。さもないと、言論の自由は、詭弁・宣伝・我田引水などのごった煮にすぎなくなるからである、と(『公共の哲学』1955年)。

しかし、ここでも、醒めたエリート知識人がフェイク・ニュースを見抜き、公衆を指南するという考え方は変わっていないようにみえる。

リップマンとデューイ、二人の相反する見解の現代的意味はどこにあるのか？

現代社会は一方で、リップマンが抉り出したように、虚像や画一性によって世論が操作されてしまう危険が常に存在する。

しかし他方、新しいメディアは、従来不可能だったことを可能にする。ソーシャル・メディアやネットワーク・メディアにより、コミュニケーションの輪が大きく広がった。インターネットの呼びかけで集まったイラク戦争反対デモ（2003年）がその好例だ。そのイラク戦争について英国では「イラク戦争は誤り」という報告書が出され、開戦を煽ったブレア首相は謝罪に追い込まれた。

ちなみに日本では、イラク戦争に大いに賛成した某大新聞は全く自己批判をしていない。ポスト真実を批判する資格はない。こうしたメディア社会の中で、政治の在り方と民主主義はどのように考えられるべきかが課題となる。

一人ひとりの政治的判断のリテラシーはメディア・リテラシーと関連してどのように育まれるべきか？ここに「熟議民主主義」という考え方が登場。多数決原理ではなく、少数意見も尊重しつつ、公共的問題を議論によって深めようというかたちの民主主義だ。利害関係者の「初めに結論ありき」というかたちの議論やディベートとは異なる。他者の意見に耳を傾けながら自らの立場を修正しようとする態度を持って議論する。熟議の中で自分の考えを形成することが重視される。

ちなみに、従来、電力会社による世論操作が横行してきた一方、今日、脱原発派の大手メディア（東京新聞）が登場。おまけに、イラク戦争に賛成した小泉純一郎元首相までもが「原発即廃止！」と主張するようになった。

熟議民主主義が必要な好例として、原発の高レベル放射性廃棄物の問題がある。「国民的議論を喚起し、原発反対か推進かに二分されている議論を同じテーブルにつけるようにしたい」（今田高俊・東京工業大学名誉教授）。廃棄物処分問題は、原発賛成・反対にかかわらず逃げられない課題で、意見対立を超えて原子力政策を議論する端緒となりうるからだ。

今日の暫定的結論としては、このようなメディアによる世論操作に対抗する「熟議民主主義」を重んじる

文化の形成はどのようにして可能か、を皆さんに考えていただきたいと思う（参考書として『民主主義と教育』岩波文庫）。

#### ＜参加者の感想～アンケートから 一敬称略～＞

- ★後半の質問等で熟議の重要性、難しさがよくわかりました。（無記名）
- ★こういうディスカッション方式は初めて。世論は胡散臭いものと言われましたが、その通りと思います。多数世論が正しくて、少数意見はまちがっているとは恐ろしい世の中となっていて危機感を覚えます。（N.S）
- ★とても興味深かった。また同じテーマでお願いしたい!!（I.E）
- ★公共哲学について、リップマンとデューイの対論から掘り起こしていただいて大変参考になった。公衆を作っていくことに私は賛成であるし、「みんなのため」という公共意識を分断されないようにしつつ、特に民主主義の原点として税の使い方、公共財（社会公共資本）について地域社会から関心をもっていくことによって代表制民主制と別の回路を作っていくことが大切であると思う。そのためには他者の意見を聞き届けるスキルも磨くことが必要である。（T.Y）
- ★そのような場面で真偽、適不適が判断され、それらがどのような関係の中で「同調圧力」として威力をもつか。（S）
- ★問題は理解できた（している）と思うが、今後、どのような活動をすべきか結論が出ない。巷で問題のある人？メディアの人を講師に呼んで話を聞く。Discussion をしてみたい。（S.T）
- ★世論は作られていくというのを普段から最近特に感じるが多い。SNS に可能性はないのだろうか。確かに偏ったものになるのだが、時々（特にツイッター）熟議とも思えるやりとりもたまに見かける。（H.M）
- ★メディアの位置づけを客観的に見ることができた。情報を得ることができた。（K）
- ★マスメディアを通じて洪水のように流れてくる各種情報に対して、どのようなスタンスで立ち向かうべきか、という問題意識を長年持っておりましたが、その状況にますますひどくなっていると思います。（特に IT, SNS などの出現により）そのような自分の問題

意識に対する解の一つを、本日のセミナー（山脇先生のご意見）で得たように思います。有難うございました。（小瀬垣利幸）

★会場も落ち着いてよかった。少し声が聞きにくかった。熟議民主主義についてももう少しつっこんだ話が欲しかった。どこの民主主義が進んでいるのか。（S.M）

（文 杉山寅次郎）

.....

## ◇憲法カフェ@四谷◇

### 11月例会 自民党改憲案を学ぶ ～その1 九条改定案～

【日 時】2018年11月22日（木）18:30～21:00

【場 所】東京法律事務所

安倍首相が自衛隊の式典などで、「憲法“改正”をするのが国会議員の義務だ」などと言いつつ、ベグライテンはいよいよ安倍首相が憲法改正に本格的に乗り出すつもりでいると考え、自民党の改憲案をもう一度勉強し直す気構えで、憲法カフェをリセットしました。

10月から第3期を始め、11月は第3期第2回目、テーマは「九条改定案」でした。ところが、参加者は岸弁護士を入れて3人。しかも、いわゆる護憲派は岸先生だけで、私などはスイス型の武装中立論なので、どちらかと言えば護憲的改憲論などに近い立場。もう一人も同じようなものだから、逆に心配になってきて、なぜみんなが来ないのかが話題になりました。

臨時国会が空転しているので、改憲案の上程ができないと安心しているのではないかと、否、国会議員の3分の2の勢力にものを言わせ、審査会を含め強引に改憲手続きを進めてくるのではないかと、そうならばとても危険だ、否、国民の過半数が改憲に反対しているから……、否、否、過半数を少し超えたぐらいでは危うい、権力がその気になれば世論などを覆すのはわけない……等々、いつもの議論を繰り返した。

憲法の解釈権は内閣にあるなどと言う安倍内閣の下では、どのような改憲案も安倍首相の好きなように解釈されてしまうので改憲議論に乗らないことが肝要だと確認して散会。

## 12月例会 自民党改憲案を学ぶ（その2） ～緊急事態条項について～

【日 時】2018年12月13日（木）18:30～21:00

【場 所】東京法律事務所

12月例会も、岸弁護士を入れて、3人。岸弁護士から、「私がいけないのかしら？」「私では、人が集まらないのかしら？」との発言があり、関根が「原因は別なところにあると思う、次回までにやり方を考えてきます」と引き取る。（注）

テーマは、緊急事態条項の挿入。自民党案は、自然災害を念頭に置いた書き方になっているが、東日本大震災は緊急事態条項がなくとも乗り切れた。本当の狙いは侵略、大規模テロ、内乱などであることを確認。

また、「憲法の解釈権は内閣にある」などと言う安倍内閣の下では、どのような改憲案も安倍首相の好きなように解釈されてしまうので、改憲議論に乗らないことが肝要であることを再確認。

（注）次回の1月例会も、このような少人数であった場合には、2月から憲法カフェ@上智大学というかたちにすれば人数が増えると思われるので、一定期間後参加者数を増やしたら、また憲法カフェ@四谷に戻ってくるという案を考えた。しかし、1月例会は8人の参加があったので、2月も東京法律事務所で開催することになった。

（1月例会以降の報告は、4月号に掲載します。）

（文 関根和彦）

.....

## ◇施設訪問◇

### 暮らしネット・えん

【日 時】2018年11月25日（日）13:30～16:00

【場 所】暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神 2-1-4

（堀之内病院の近くです）

<http://npoenn.com/publics/index/2/>

<参加者の感想 坂田 伸子さん>

「ディホームえん」（認知症専用小規模ディサービス）

ス)、「だれでも食堂にいざ」、グループリビング・えんの森(高齢者共同生活運営住宅)、「ケアサポートえん」(ホームヘルパー派遣)「ケアプランえん」(ケアマネジメント)の事務所見学、「グループホームえん」(認知症高齢者グループホーム)、「多機能ホームまどか」(小規模多機能型ホーム)を、代表理事の小島美里さんのご案内により、見学いたしました。人材・施設の充実、活発な地域交流の様子を実感。365日無休の介護保険対応サービス、障がい者自立支援法対応サービス、場合によっては看取りまでケアがあることを知り、「高齢になっても、障がいがあっても、おとなも、子どもも共に生きる地域社会をつくること」という「暮らしネット・えん」の目的の具現化を垣間見たような感動がありました。

特に印象深かったのは、「だれでも食堂にいざ」と「グループリビング・えんの森」でした。「だれでも食堂にいざ」では、食事をいただくことができました！スペースは活気に溢れ満席。老若男女、子ども連れの若い夫婦や家族連れの姿もあり。一食300円で、本日のメニューは、沖縄そば、きんぴら、野菜の即席漬け、さつまいもの茶巾絞り、チョコバナナ。どれもまるやかな味わい、野菜もたっぷりで美味しい。

受付で名札シールを貼るので、初めての方たちも名前を呼び合いながら話ができて、しかも自分の「呼ばれたい名前を、(ニックネームでも)書いてくださいね」とのこと。地元の方もそうでない方も気楽にコミュニケーションをとりやすい良い工夫がありました。

満員のため、別室で食していると、絵本の読み聞かせや子どもたちの歌声、楽器の演奏等があり、笑い声が聞こえて楽しく和やかな雰囲気が伝わってきました。すべて、地域のボランティアで運営されており、食材も寄付がほとんどで、赤字になっていないとのこと。代表の小島さんも三角巾にエプロン姿でスタッフに混じって働いていらっしゃいました(後の紹介の際に気がつきました!)。地域の交流の場として定着している様子。皆さまの笑顔、この場に居る子どもたちの姿に、明るい未来をも垣間見た気がしました。

「グループリビングえんの森」の見学では、お住まいの方から感想等、実際に伺うことができました。自由に外出し、趣味や習い事等プライベートを楽しんで

いらっしゃるとのこと。60歳以上で希望すれば入居でき、いざ病院・介護が必要になったときに相談でき、対応してくれるので安心して暮らせるとのこと。

住まいの運営も住人同士で相談して決め、絆の深まりがあること、「えん」で開催される様々なイベントにも参加で、ボランティアスタッフ、地域の方々との交換もあり、「孤独」と無縁の心豊かな暮らしをくみとれました。シェアハウスやサービス付高齢住宅でもない安心の居心地良い新しいスタイルのグループリビングの住まいに、高齢、障がいがあっても明るく前向きに生きられる、喜びのある未来を想像できました！

小島さんから 発足の経緯等のお話がありました。きっかけとなったエピソードでは、重度障がいをもつ方の親御さんが、「死ぬときはこの子も一緒に」と言っていたが、サポートで関わりを持つようになってからは、言わなくなった……という貴重な体験を伺うことができました。長い経緯の中で苦しむたくさんの方の命を救い守ってきた活動と拝察いたします。

手助けの必要な方々と寄り添いながら、その方の生きていくために必要なもの(施設やケアシステム)が創られてきていることのすばらしさ。行政のお仕着せでない地域包括ケアシステムができあがっている実際がありました。また、一人ひとりの尊厳と自立、自己実現を大切に、できあがってきた「えん」のかたち、社会福祉の原点をみるようでした。

石神緑地の森の木立から見える夕焼けの美しさ。敷地内の竹林の清々しさ。焼き芋会(12月3日)のために焚き木も集められており、自然豊かな環境も歳を重ねた方に安らぐ癒しになると感じました。

年老いての一人暮らしに「えん」のような場が、自分の近くにあったら、との見学者の方々の感想が多数ありました！よき見学・体験の機会、良いご縁(えん)を、ありがとうございました!!

.....

## ◇施設訪問◇

### がん研有明病院緩和ケア病棟

【日時】1月12日(土) 14:00~16:30

〈参加者の感想 中藤 崇さん〉

全体で3時間弱ほど。ちょっと長いかなあ……と最初は思いましたが、案内役の唐渡敦也先生の（サービス精神旺盛な）ご説明もあり、病棟も部屋もじっくりと見学でき、終わってみれば、あっという間でした。

実際の順番とは前後しますが、まずは病棟見学のお話から。病棟そのものは12階の東側にあります。ちなみに反対の西側はVIP向けのフロアになっています（扉も豪華そうで、IDがないと入れない仕組み）。

12階のエレベータホールを出た目の前には、海側を見渡せる屋外テラスがあります。ただその防護ガラスが高いのは、自殺など不慮の事故を防ぐためとのこと。確かに高さが4m近くありました。

病棟に入ると、暖色系の落ち着いた色合いのフロアになります。まず目に入ったのは談話のフロア。ピアノなども置いてあり、そこそこのスペースですね。もちろんすべて窓に面しています（東京湾側でした）。

また、車いすもたくさん置いてありましたが、この車いす、様々なかたちでの寄付品が多いのだそうです。そのため、形がバラバラなのですよ、というお話も。

構造として当たり前なのかもしれませんが、ナースステーションや管理系の設備。普通に病棟内を歩いていると、そうした設備が目立たないように配置や導線がなされています。

続いて病床、お部屋のお話。病床は全部個室で25床。無料と差額ベッドが混合とのこと。今回見学させていただいたのは差額ベッド代が必要なお部屋で一日3.3万円だそうです。全室建物の外側に向かって配置され、ベッド、ソファ、洗面所の設備などは基本共通。差額ベッドとの差分は、電子レンジやテレビが有料化かどうかなど、というご説明でした。

大きさは4畳半ほど。ベッドと窓側に置かれたソファが部屋の大部分を占めています。これを広いと観るか、狭いと観るかはその人次第ですね。私は大部屋に入院経験もあるので、そもそも個室でかつ個別の洗面所があるだけでも十分だよなあ……と感じました。

そのほかには、家族の宿泊施設も兼ねた待機室、作業室（本来は観察病室として使われるが、緩和ケアでは必要ないため、この用途になっている。）また、お風呂なども見学させていただきました。その中でも面白かったのは機械式のお風呂設備（機械浴と紹介されてい

ます）。病床一部屋分以上の広さを使ったものです。でもこの設備、一機で1,000万円ほどかかるため、有明病院に1か所しかなく、そのため、他の病棟の患者さんとも共用しているというご説明でした。

なお、病床の稼働率はほぼ80%弱。この日の空き部屋は私たちが見学できた差額ベッド代が必要な一部屋のみでした。また、有明病院は入院時に、差額ベッドの部屋かそうでない部屋かの調整は行わないそうです。つまり、救急でも患者さんはその時空いている部屋に入る。それが差額ベッドであれば、そこに入院をしてもらうということ。一方で患者さんは無料の部屋を希望する方が多いため、多くの患者さんが一旦差額の部屋に入院し、その後に無料の部屋に移ることを希望されるケースが多いです、という説明でした。

こうしたやり方は病院によって方針が異なりますね……というのが唐渡先生のご解説。お金と関係のない理由で有明病院を選ぶと、思わぬ出費になることは、事前に知っておいたほうが良い点ですね。

よくある質問ですが、生活保護の受給者でも入院は出来ますよ、とのこと。一律ダメというお話は制度上もないそうです。

ちなみに聖路加国際病院との比較では、私は有明病院のほうがフロアとしても配置としても、広くゆったりしている印象を受けました（あくまでも私の印象）。

唐渡先生のお話は、①高齢多死社会とがん、②緩和ケア病棟の動向、③がんゲノム医療とコンソーシアム、④人生の最終段階における医療と人生会議、の4つ。

これらを1時間以上にわたってたっぷりと聞かせていただきました。内容は、毎回の見学会でお話をし下さるものと、年ごとに変化する内容（アップデート）を組み合わせたらっしゃるそうです。

いわゆる緩和ケア病棟における「ケア」のお話を期待していくと、ちょっと肩透かしになります（そちらを聞きたいときは聖路加国際病院の見学会のほうが正直おススメです）。一方で今回のお話は、日本のがん医療、そして緩和ケアを取り巻く環境のお話としては聞いておいて損のない内容ばかりで、私は大満足でした。 下記の掲載原稿を抜粋↓

<https://note.mu/griefotasuke/n/n4ceb51c1cb08>  
.....

## ◆その他の開催予定◆

### ◇生と死を考える会◇

#### 死別体験者の分かち合いの会

大切な人を亡くした方が集い、率直に気持ちを分かち合う場です。生と死を考える会発足のときから、休みなく続いています。テーマや指導者を設けず、話したい方、聞きたい方、それぞれ自由にご参加ください。

【日 時】毎月

第1 土曜日 14:00～17:00

(自死により大切な人を亡くした方の集まりです)

第2 金曜日 14:00～17:00

(主としてお子さんを亡くされた方の集まりです)

第3 火曜日 18:30～20:30

(さまざまな体験の方の集まりです)

第3 土曜日 17:00～19:00

(20代から30代の世代の集まりです)

第4 土曜日 14:00～17:00

(さまざまな体験の方の集まりです)

【場 所】 生と死を考える会

<http://www.seitosi.org>

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

東京YWCA会館 2階 214号室

TEL 03-5577-3935 FAX 03-5577-3934

【参加費】 一般 1,000円 会員 500円

【備 考】 予約は必要ありませんが、開始時間には遅れないようにお越しください。

### ◇金と神～経済学と神学の対話◇

浜 矩子（経済学者）× 福嶋 揚（神学者）

経済と信仰、あるいは金と神とのあいだに、いった

い何か関係があるのでしょうか？……実はおおいにあるのです。

たとえば、クレジット（信用）の語源がクレド（信仰）であることをご存知でしょうか。また、聖書には金や富にまつわる実に数多くの物語や言葉が登場することをご存知でしょうか。

メディアや著作を通して大活躍しておられる、経済学者の浜 矩子先生をお迎えして、神学者の福嶋 揚が越境的な対談を試みます！

【日 時】2月16日（土） 13:00～15:30

【会 場】日本キリスト教団 西片町教会

<http://nishikatamachi.net/index.php?>

【申 込】[yofukushimade@yahoo.co.jp](mailto:yofukushimade@yahoo.co.jp) あるいは下記のFBのイベントページの参加ボタン、あるいはDMで、お願いいたします。

<https://www.facebook.com/events/372677366827772/384470068981835/>

【参加費】1,000円

【問合せ】[yofukushimade@yahoo.co.jp](mailto:yofukushimade@yahoo.co.jp)（福嶋 揚）

### ◇第132回市民憲法講座◇

#### 安倍軍拡と日米地位協定を考える

沖縄で玉城県知事が誕生し、辺野古新基地建設反対の民意が明確に示されました。しかし、安倍政権は辺野古への土砂投入を強行するなど沖縄の人々の思いを踏みにじる行為を止めようとしていません。一方で「思いやり予算」など日米軍関連経費は増え続けています。その根底には、日本全土に基地を置くことを可能にし、米兵の犯罪を日本が捜査できないなど、米軍の特権を定めた日米地位協定の問題があります。

今回の講座では改めてこの協定の内容を問い、安倍政権の軍拡を止めるために私たちがどのような世論



をつくっていくべきなのかを考えたいと思います。  
ぜひご参加ください。

<http://web-saiyuki.net/kenpoh/>

- 【講師】** 前田哲男さん（軍事ジャーナリスト）  
**【日時】** 2月16日（土）18:30 開始  
**【場所】** 文京シビックセンター3階会議室 A+B  
<http://www.city.bunkyo.lg.jp/shisetsu/civiccenter/civic.html>  
**【参加費】** 800円  
**【主催】** 許すな！憲法改悪・市民連絡会  
東京都千代田区三崎町 2-21-6-301  
TEL 03-3221-4668

## ◇軍事化される宮古島 ——変わる島の風景◇

「軍事要塞化されようとしている宮古島」  
生粋の宮古生まれ、宮古育ち、宮古在住のしもじけいこさんに宮古の自衛隊基地の現状について、宮古の文化、風習を通して語ってもらいます。

<http://www.jca.apc.org/HHK/>

- 【日時】** 2月16日（土）19:15～21:00  
**【会場】** 中野区産業振興センター地下多目的ホール  
（中野区中野 2-13-14）  
<http://nakano-sangyoushinkou.jp/access>  
**【問合せ】** 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック  
（090-3910-4140）  
<http://web-saiyuki.net/kenpoh/>

## ◇日本経済復活の会◇

### 山本太郎議員講演

- 【講師】** 山本太郎 参議院議員  
小野盛司 日本経済復活の会会長  
『日本経済復活への道 —お金がなければ刷りなさい—』  
日本よりはるかに景気が良いアメリカも大型の減税が実施される一方で、デフレ脱却ができていない日

本は消費増税に加え次々と増税案が出されています。

2014年度の消費増税で景気は後退したという反省はありません。実質賃金は下がり続け、景気回復を国民は感じておりません。一人当たりの名目GDPは1990年頃世界トップレベルであったのが、最近では先進国では最低に、アジアでもどんどん追い抜かれているのが実情で、日本は急速に貧乏になりつつあります。失われた20年がこのままでは失われた30年へと進んでいきます。世界経済を牽引し始めたAI技術においても日本は周回遅れといわれています。財政を拡大すればデフレ脱却・景気回復・財政健全化が一挙に達成されるのに、なぜそれが理解できないのか。われわれの戦いはまだまだ続きます。

- 【日時】** 2月17日（日）15:00～18:30  
**【会場】** 江東区文化センター 第一、第二研修室  
江東区東陽4丁目11-3  
<https://www.kcf.or.jp/koto/access/>  
**【申込】** 問合せ先まで  
**【参加費】** 1,000円  
**【問合せ】** 小野（03-3823-5233）[sono@ajer.biz](mailto:sono@ajer.biz)  
<http://www.ajer.biz/meeting.html>

## ◇改憲を先取りする自衛隊のリアル ——自衛隊・米軍基地の急激な変貌の実態◇

- 【日時】** 2月18日（月）17:30～19:30  
**【講師】**  
柳澤協二氏：2018年防衛大綱の分析  
半田 滋氏：辺野古だけではない  
自衛隊・米軍基地の急激な変貌  
杉谷 剛氏：はどめなき軍拡と国民生活

<http://kaikenno.com/?p=929>

- 【会場】** 衆議院第一議員会館 多目的ホール  
<http://bb-building.net/tokyo/deta/459.html>  
**【問合せ】** 日本民主法律家協会（03-5367-5430）  
**【その他】** 17時より1階ロビーで入館証を配布

## ◇安倍政治を終わらせよう！ 2.19 院内集会◇

下記の通り集会を開催します。ぜひご参加を！

【日 時】2月19日（火）17:00 から

【場 所】参議院議員会館講堂

【講 師】金子勝さん（立教大学特任教授）

「嘘つきが国を滅ぼす 公文書と政府統計の改ざん  
問題の本質」

【参加費】無料

【主 催】戦争をさせない1000人委員会・  
立憲フォーラム

## ◇国会正門前行動◇

辺野古新基地建設は断念を！

土砂投入即時中止！

普天間基地即時返還！

安倍9条改憲NO！2.19 国会正門前行動

【日 時】2月19日（火）18:30～

【場 所】国会正門前を中心に

（並木通り両側、南庭・北庭前歩道）

【共 催】戦争させない・9条壊すな！

総がかり行動実行委員会

安倍9条改憲NO！全国市民アクション

「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会

※LEDライト等の光り物を、お持ちの方は、ご持参  
下さい！

※宣伝へのご協力もお願いします

## ◇シンポジウム◇

地域社会と宗教者

—グリーンケアと災害・防災—

【日 時】2月23日（土）15時～18時半

【場 所】上智大学6号館410教室

【参加費】無料

【講 師】

①竹内真治（金光教大阪災害救援隊）

「災害と防災について考える ～災害の現場から」

②飯島恵道（曹洞宗薬王山東昌寺住職、市民団体

“ケア集団ハートビート”代表）

「地域社会とグリーンケア～松本市ケア集団ハート  
ビートの試みから」

司会 島藺進（上智大学グリーンケア研究所長・

RISTEX 川崎プロジェクト代表）

<https://sites.google.com/site/syuenrenindex/>

【主 催】JST/RISTEX（都市における援助希求の多  
様性に対応する公私連携ケアモデルの研究開発）、上  
智大学グリーンケア研究所、宗教者災害支援連絡会

【問合せ】（E-mail）[info@syuenren.opensnp.jp](mailto:info@syuenren.opensnp.jp)

## ◇千葉いのちの電話◇

第23回自死遺族支援公開講演会

「心をほぐすコツ教えます」

【日時】2月24日（日）13:30～15:00

【講師】香山リカ

精神科医・立教大学 現代心理学部教授

【会場】パレット柏（定員80名）

【共催】柏市

「ひとはいつだって変わる」

【日時】3月10日（日）13:30～16:00

【講師】夏苺郁子

児童精神科医 医学博士 精神保健指定医

【会場】千葉市生涯学習センター大研修室3F

（定員80名）

【申込】先着順。入場無料

【問合せ・申込】社会福祉法人 千葉いのちの電話

事務局（月～金9:00～17:00 祝日休）

TEL 043-222-4322 FAX 043-227-6911

メール [11-chiba@chiba-inochi.jp](mailto:11-chiba@chiba-inochi.jp)

<https://www.chiba-inochi.jp/events/>

## ◇署名街頭宣伝◇

**STOP！ 辺野古埋め立て**

**『安倍 9 条改憲 NO！ 3000 万署名街頭宣伝』**

集会やデモだけではなく日常生活や地域、駅頭で市民が立ち上がり、声を上げ始める。安倍政権や戦争を推し進めようとしている人たちにとって、こんな恐ろしいことはありません。

みなさん、街頭に立って声を上げ始めませんか？チラシを配ったり、プラカードを持ったり……それぞれのやり方で、見守るだけでも OK です！

スピーチ、署名集め、横断幕持ち、紙芝居持ち、などなど大歓迎！

**【日 時】** 2 月 24 日（日）14:00～15:30

**【場 所】** JR 新宿駅 西口

**【主 催】** 憲法 9 条を壊すな！実行委員会

街頭宣伝チーム

## ◇99%のための経済政策フォーラム◇

**第 3 回学習会**

**あるべき社会保障制度改革と財政問題**

**【日 時】** 2 月 28 日（木）開会 16:00 終了 18:30

**【講 師】** 伊藤周平（いとう しゅうへい、  
鹿児島大学教授、社会保障法）

**【場 所】** 衆議院第一議員会館 大会議室（300 名）

**【資料代】** 500 円（入館証配布 15:30 開始）

**【集 合】** 趣旨に賛同される方はどなたでもご参加いただけます。予約申し込みは不要です。

なお、お手伝いいただける方は 14:30 に衆議院第一議員会館ロビーに集合ください。

**【主 催】** 99%のための経済政策フォーラム

<https://99forum.jimdofree.com/>

## ◇原爆の図第 10 部『署名』を 展示する杉並区民の会◇

**原爆の図第 10 部《署名》を見よう**

1954 年、第五福竜丸の被爆と放射能汚染マグロに直面し、杉並の魚屋さんの呼びかけで始まった原水爆禁止の署名運動は全国に広がりました。その署名に参加した人々の決意と願いを丸木位里・俊は原爆の図第 10 部『署名』に描きました。この作品は日本をはじめ世界各地で巡回されました。それを今回初めて杉並で展示します。併せて、当時の署名運動や第五福竜丸についての貴重な資料も展示し、被爆者の証言、講演会なども行います。

<https://peace-suginami.org/>原爆の図第 10 部《署名》を見よう/

**【日 時】** 3 月 4 日（月）10:00 ～ 9 日（土）20:00

**【会 場】** セシオン杉並展示室 杉並区梅里 1-22-32

[https://www.confetti-web.com/site\\_map.php?site\\_code=336](https://www.confetti-web.com/site_map.php?site_code=336)

**【参加費】** 1 回券 300 円／通し券 500 円（開催期間中何回でも入場出来ます） ※高校生以下無料

**【問合せ】** 原爆の図第 10 部『署名』を展示する杉並区民の会  
[suginami.peace@gmail.com](mailto:suginami.peace@gmail.com)

**【その他】** \* 初日 14 時開場／最終日 18 時終了

\* 初日 14 時よりオープニングセレモニー／14 時半より原爆の図解説

（お話：丸木美術館学芸員 岡村幸宣さん）

\* 各日午後よりトーク、上映会

（展示室イベントコーナー）

\* 初日以外の各日 10:30 と 15:00 から実行委員による鑑賞ガイド（20 分程度）

**特別講演**

**《原水禁署名運動から核兵器禁止条約へ》**

**【講 師】** 川崎 哲さん

（ICAN 核兵器廃絶国際キャンペーン 国際運営委員）

<https://peace-suginami.org/>特別講演《原水禁署名運動から核兵器禁止条約へ》

【日 時】3月9日(土) 18:30~20:00

【会 場】セッション杉並ホール

[https://www.confetti-web.com/site\\_map.php?site\\_code=336](https://www.confetti-web.com/site_map.php?site_code=336)

【申 込】<https://peace-suginami.org/application/>

【参加費】当日 700 円 / 前売 500 円

【問合せ】原爆の図第 10 部『署名』を展示する杉並区民の会 [suginami.peace@gmail.com](mailto:suginami.peace@gmail.com)

【その他】※一般の方でチケットご希望の方は、氏名、住所、電話番号、年齢、希望枚数を明記の上、3月5日までに Email [suginami.peace@gmail.com](mailto:suginami.peace@gmail.com) または FAX 03-6762-3515 でお申し込みの上、下記振替口座に枚数分振り込んでください。

入場者数が限られているために、事前のお振込みをお願いします。当日受付での引き換えとなります。

【加入者名】原爆の図第 10 部「署名」を展示する会

【振替口座番号】00190-7-767933

※学生予約 / チケットはサイトからも申し込みできます。

<https://peace-suginami.org/application/>

※当日券は空席がある場合のみ 17 時から先着順で販売します。

## ◇横浜いのちの電話◇

### 「ナミヤ雑貨店の奇蹟」

横浜いのちの電話は、24 時間休まず人々の悩みや不安を聴いています。その活動を支えるための映画会。

【日 時】3月8日(金) (開場各回 30 分前)

1 回目 11:00 2 回目 14:30 3 回目 18:30

【会 場】戸塚区民文化センターさくらプラザホール

【入場料】前売券 1,000 円 当日券 1,200 円

【申込み・問合せ】横浜いのちの電話事務局

TEL 045(333)6163 (月~金 9:00~17:00)

FAX 045(332)5683 (24 時間対応 12/3~2019/2/22)

\*いのちの電話支援会手作り品バザー同時開催!

## ◇がん相談研究会◇

### 第 8 回 遺族との関わりを考える

### ~悲しんでいる人に向き合うとき~

【日 時】3月9日(土) 10:00~16:00

【場 所】首都大学東京荒川キャンパス

【大会長】橋 直子 (山口赤十字病院)

【対 象】がん相談に携わる方

【基調講演】『悲しみを生きる力に』10:10~ (90 分)

入江 杏(ミシュカの森 主宰/上智大学非常勤講師)

<https://sites.google.com/site/gansodankenkyukai/home/8th-taikai>

【参加費】会 員 事前申込み 4,000 円

当日参加 5,000 円

非会員 事前申込み 7,000 円

当日参加 8,000 円

年会費 3,000 円 (一般社団法人がん相談研究会)

【問合せ】一般社団法人がん相談研究会

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13

小石川アーバン 4F

一般社団法人学会支援機構内

TEL 03-5981-6011 FAX 03-5981-6012

Mail [gansoudan@asas-mail.jp](mailto:gansoudan@asas-mail.jp)

## ◇埼玉いのちの電話◇

### チャリティ映画会

### 「wonder ワンダー 君は太陽」

—日本語吹き替え版—

映画公式サイトは→ <http://wonder-movie.jp/>

【日 時】3月16日(土) (開場各回 30 分前)

①10:30 ②13:30

\*混雑した場合、電話予約の方が優先になることがあります。

\*午前の部は視覚障がい者の方々に音声ガイドを実施 (希望者は上映中に携帯ラジオの FM でガイドを聴けます)。

\*午後の部終了後に、原作本『ワンダー』の翻訳

者・中井はるのさんのアフタートークあり。

【会 場】 埼玉会館 小ホール

【協力券】 1,000 円 (小学生以下無料)

【主 催】 埼玉いのちの電話後援会

【後 援】 埼玉県、さいたま市、埼玉県教育委員会、  
埼玉県社会福祉協議会、埼玉県 PTA 連合会、さい  
たま市社会福祉協議会

【協 賛】 一般財団法人埼玉新聞社会福祉事業団、医  
療法人社団群羊会、(株) ショッパー社さいたま支  
社、(株) 大和不動産、(株) 松下設計、埼玉トヨ  
ペット(株)、ノグチコンピュータサービス(株)、  
服部地質調査(株)、武州ガス(株)、ポラス(株)

【申込み・問合せ】 埼玉いのちの電話 事務局

電話 048-645-4322 FAX 048-645-4355

(月曜～土曜 10:00～17:00)

れる問題です。戦争は一人ひとりの人権を最も蔑ろに  
するものですが、こうした問題に兵士をも含めたアメ  
リカの人びとはどのように声を挙げていったのか、戦  
争を遂行しようとする社会と、それに抵抗する人びと  
について、文化の問題として、改めてベトナム戦争の  
遺産とは何だったのか、考えてみたいと思います。

<https://twitter.com/anpogakusya/status/1085435721270276096>

【日 時】 3月16日(土) 13:30～16:00

【会 場】 日本女子大学目白キャンパス新泉山館  
大会議室 <https://www.jwu.ac.jp/grp/access/>

【参加費】 無料 / 申込不要

【問合せ】 平和を求める日本女子大学有志の会  
[joshidaiheiwa@gmail.com](mailto:joshidaiheiwa@gmail.com)

## ◇シンポジウム◇

### 地域ケアと悲嘆を分かち合える場

【日 時】 3月17日(日) 13:00～17:00

【場 所】 カルッツかわさき / 中会議室 1・2

<http://culttz.city.kawasaki.jp/access/>

【発 題】 杉山 春 (ルポライター)

入江 杏 (ミシュカの森 主宰、

世田谷区グリーンサポート検討委員)

小川有閑 (大正大学研究員、浄土宗寺院住職)

コメント 竹島 正 (川崎市精神保健センター所長)

司 会 堀江宗正 (東京大学文学部准教授)

## ◇平和を求める

### 日本女子大学有志の会◇

#### 今、ベトナム戦争から学ぶこと 一戦争を支える『文化』、平和を求める力一

【講 師】 白井洋子氏 (日本女子大学名誉教授)

#### <講師からのメッセージ>

ベトナム戦争と聞いて、すっかり過去の戦争を思っ  
てはいませんか? 自分達には全く関係のない戦争  
だったと考えてはいないでしょうか? アメリカが  
海外で唯一敗北した戦争、「汚い戦争」と呼ばれ、国論  
を二分し、戦争終結から40年以上を経た今もなお、ア  
メリカ社会の深部にその影を忍ばせている戦争……。  
アメリカ史のなかでも激動の時代と呼ばれる1960年  
代から70年代はじめにかけて、ベトナム反戦運動は、  
黒人公民権運動、フェミニズムと深く結びつきながら、  
アメリカのみならず世界の、そして日本の、とりわけ  
若者たちの文化や価値観を突き動かし、今日の多文化  
主義やジェンダー概念の形成に大きな役割を果たし  
てきました。

民主主義、ジェンダー、人種、性について考える時、  
個人の人権をどう尊重するのかは、今、真っ先に問わ

## ◇3.21 さようなら原発全国集会◇

【日 時】 3月21日(木・春分の日)

【場 所】 代々木公園B地区 (JR 山手線「原宿  
駅」、地下鉄千代田線「明治神宮前駅」、千代田線  
「代々木公園駅」、小田急線「代々木八幡駅」)

【主 催】 「さようなら原発」一千万署名 市民の会  
内橋克人 大江健三郎 落合恵子 鎌田慧  
坂本龍一 澤地久枝 瀬戸内寂聴

【連絡先】 さようなら原発1000万人

アクション事務局

【協 賛】戦争させない・9条壊すな！総がかり行動

実行委員会

最新情報は、公式サイトにて↓

<http://sayonara-nukes.org/2018/12/20181226a/>

## ◇シンポジウム◇

「人づくり革命」に対して  
どのような人と社会を求めるか  
—子ども・若者・グローバル化—

膨張する教育市場と空洞化する労働市場において推進される、安倍政権の「人づくり革命」。そのもとで、学びと労働は数値で査定され、差別され、排除されて、人としての尊厳が奪われています。この現実から、政策転換の必要性和緊急性を議論し、私たちの考える社会を展望します。

<http://anti-security-related-bill.jp/images/news190125.pdf>

【日 時】3月23日（土）13：30～16：30

【会 場】上智大学 6号館 307教室

【報告者】教育：佐藤 学（学習院大学）

雇用：上西充子（法政大学）

外国人労働者：安田浩一（ジャーナリスト）

女性・ジェンダー：是恒香琳（大学院生）

若者：諏訪原健（市民連合）

シンポジウム：佐藤、上西、安田、是恒、諏訪原

コーディネーター：中野晃一（上智大学）

あいさつ：広渡清吾（東京大学名誉教授）

【参加費】無料／予約不要

【主 催】上智大学グローバル・コンサーン研究所  
／立憲デモクラシーと平和を考える上智大学有志  
の会／安全保障関連法に反対する学者の会

【問合せ】安全保障関連法に反対する学者の会

[anpogakusya@gmail.com](mailto:anpogakusya@gmail.com)

## ◇やんばる地区の米軍基地に 関する環境問題◇

2016年12月、沖縄島北部やんばるの森に立地する米海兵隊演習場「北部訓練場」の約4,000ヘクタールが、6箇所へのりパッド建設と引き換えに返還された。沖縄防衛局は演習場返還にあたり、返還地に残された米軍の廃棄物や土壌汚染の撤去・除去を行ったと説明し、返還地の一部は国立公園ともなったが、講師は実際に返還地で未使用弾や照明弾、レーション（携行糧食）のゴミなどを大量に発見し、報道でも取り上げられている。

今回のセミナーでは、北部訓練場返還地の現状とやんばる国立公園化の問題点、あるいは北部訓練場周辺の集落である高江・安波や北部訓練場返還地における米軍機の飛行状況、そして高江・安波で講師が発見した希少動物や米軍ヘリパッド建設や米軍機の飛行が野生動物や生態系に与えた影響の具体例などについて、映像とともに報告いただく。

<http://kaeizyuku.com/2019/01/11/kaei-seminar/>

【日 時】3月22日（金）19:00～21:00

【会 場】ハロー貸会議室神保町 8F

（千代田区神田小川町 3-10 新駿河台ビル 8F）

【参加費】500円（学生、障がい者、介護者無料）

【問合せ】花瑛塾

<http://kaeizyuku.com/問い合わせ/>

## ◇朝日カルチャーセンター◇

悲しみを生きる力に「グリーフケア入門」講座

「グリーフケア」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか？

「グリーフ」とは、喪失に伴う悲嘆のこと。喪失悲嘆に向き合い、寄り添うのが「グリーフケア」です。かけがえのない人との死別、特に災害や事件・事故、

## ◇在宅ホスピス ボランティアきぼう◇

自死など、予期せぬ喪失悲嘆はグリーフを複雑化させます。

私自身は世田谷事件という 2000 年末に起きた殺人事件の遺族。当事者として、グリーフケアを学び、実践してきました。当事者ならずとも、人生には様々な喪失がつきまとうもの。だからこそ、喪失をマイナスとのみ捉えるのではなく、気づきの機会、希望への道標とするのが「グリーフケア」でもあります。実体験を織りまぜつつ、「グリーフケア」を知る、初めの一歩となる講座です。

【日 時】3月25日(月) 19:00-20:30

【講 師】入江 杏(いりえ あん、上智大学グリーフケア研究所非常勤講師、世田谷区グリーフサポート検討委員、「ミシュカの森」主宰。「えんじにあす」代表取締役)

【略 歴】国際基督教大学(ICU)卒業。2000 年末、英国生活から帰国した途端に、世田谷一家殺人事件により、隣地に住む妹一家4人を失う。犯罪被害の悲しみ・苦しみと向き合い、葛藤の中で「生き直し」をした体験から、「悲しみを生きる力に」をテーマとして、行政・学校・企業などで講演・勉強会を開催。「ミシュカの森」の活動を核に、悲しみの発信から再生を模索する人たちのネットワークづくりに努める。

著書に「悲しみを生きる力に～被害者遺族からあなたへ」(岩波書店)、絵本「ずっとつながってるよ～こぐまのミシュカのおはなし」(くもん出版)下村健一氏と共著に「マスコミは何を伝えないか」(岩波書店)ほか多数。

【受講料】会員 3,240 円 一般 3,888 円(税込み)

【場 所】朝日カルチャーセンター新宿教室

〒163-0210 東京都新宿区西新宿 2-6-1

新宿住友ビル 10 階(受付)

【アクセス】◆新宿駅より徒歩約 8 分/丸の内線西新宿駅より徒歩約 5 分/大江戸線都庁前駅 A2 出口すぐ

【申込・問合せ】電話番号：03-3344-1941

受付時間：月～土 10:30～18:30

【インターネット照会】 <http://ur0.biz/Q9za>

<https://www.asahiculture.jp/shinjuku/course/5c90cec5-c3a3-336b-507e-5bbc71d8af06>

<https://www.asahiculture.jp/shinjuku/course/5c90cec5-c3a3-336b-507e-5bbc71d8af06>

### 講演会

#### 「日野原重明先生の生き方・死に方から学ぶ」

【日 時】3月30日(土) 14:00～16:00

【会 場】東京大学医学部鉄門記念講堂

(東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟 14 階)

東京都文京区本郷 7-3-1

【内 容】

『死に遭遇して変わったこと、変わらなかったこと』

『死を前にしての“死の受容”と“納得死”の実現』

【講 師】川越 厚

(医療法人社団パリアン理事長・クリニック川越院長)

\* 婦人科腫瘍医から在宅ホスピス医へ転身

著書『結腸がんを患い(39 歳)、生死を彷徨った私』

\* 『日野原先生の死を通して学んだこと』

死を前にして、ひとはなお希望を持って生きられること

“死の時までをいかに豊かに生きるか”ということ

その生き方を支えるのがホスピスケアであるということ

【募 集】200 人(先着順)

【参加費】無料

【申込み】参加ご希望の方は、お名前、電話番号・

メールアドレス等ご連絡先を FAX・メール・はがき・

直接事務局へのいずれかで下記へご連絡ください。

複数名の方でまとめてのお申し込みも承ります。

【申込み・問合せ】

NPO 法人在宅ホスピスボランティアきぼう事務局

TEL 03-5669-8302 FAX 03-5669-8310

はがき 〒130-0023

墨田区立川 2-1-9 KH ハウス 1 階

e-mail [info@volunteer-kibou.org](mailto:info@volunteer-kibou.org)

<https://www.volunteer-kibou.org/lecture/>

.....

## ★★★ 編集後記 ★★★

この会報 106 号（2019 年 2 月発行）から編集・発行体制が変わりました。編集長が入江 杏さんから森永智子さんへ、印刷・発送担当が山本啓輔さんから杉山寅次郎さんに代わり、管理担当（会報発送先名簿管理、会報会計）は引き続き内田麻由子さんが引き続き務めてくださいます。

また、今月から、これまで“ベグライテン”と“ミシュカの森”が共同主催のかたちで行ってきた、例会、公共哲学を学ぶ会、ケアの哲学入門、公共哲学入門、緩和ケア病棟などの訪問などは、ベグライテンの単独主催で行うことになりました。

入江さんが、2006 年から毎年 12 月に行っているミシュカの森の追悼と再生の行事については、ベグライテンは第 1 回からいろいろなかたちで積極的に協力してきました。入江さんが“ミシュカの森”を入江さんの活動の総称として位置づけ、積極的に多方面にわたる活動を展開され始められ、2012 年 5 月以後、ベグライテンはほとんどの活動をベグライテン・ミシュカの森の共同主催の行事として取り組むようになりました。

これ以後、読書会として行われていた公共哲学を学ぶ会は、講演会として行われるようになり（月 2 回の講演会）、さらに現在の例会（ケアの例会と公共の例会）と哲学入門講座（ケアの哲学入門と公共哲学入門）各 1 回のかたちに発展することができました。また、ベグライテンは、上智大学の先生方に協力することで、コミュニティ・カレッジの講座を応援していますが、この面でも入江さんのご尽力と貢献は大きなものがあったと思います。

また、2013 年 5 月（第 72 号）からは、入江さんはベグライテン会報の編集を引き受けてくださいました。それまでのどちらかと言うとケアに偏った会報から、ケアと公共のバランスが取れたベグライテンらしい会報になり、また文化の香りのする会報になったのは入江さんのお蔭だと思っております。

この間の入江さんの活動の発展は目覚ましいものがあり、ベグライテンとの共同行動以外の場面でも大きく発展したため、ベグライテンのために割ける時間

が段々厳しくなってきたところ、去年は体調も優れないことが多くなり、会報の編集辞退、ベグライテンとの共同行動の解消に向かわざるをえなかったものと思料しております。

入江さんには、これまでのご尽力に感謝するとともに、今後も可能な範囲でご協力いただけますよう、お願いいたします。また、入江さんの活動のさらなる発展を祈念させていただきたいと存じます。

（文 関根和彦）

## ★★★ 会報担当を引き継いで ★★★

会報の編集・制作を引き継ぐことになった森永です。会報作りはある意味単純作業と言えますが、労力とともに時間は非常にかかります。これまでの入江さんの貢献に、今さらながら頭が下がります。長いあいだ、本当にお疲れさまでした。

106 号から、発行を奇数月から偶数月の初旬に変更させていただきました。また、インターネットをご使用されていない読者の方を想定し、レイアウト・体裁などを変えてみました。お気づきの点や改善点などがございましたら、どしどし、下記にメールかお電話をいただけますでしょうか。

106 号では、オープンダイアログや施設訪問などの報告を参加者にご執筆いただきました。若干の字数調整などをいたしました。多めに誌面を割いています。座学ではなく、体験や見学の報告はとても参考になります。ご執筆の方々に改めて感謝申し上げます。

編集・制作といっても、私は受領原稿を会報形式にまとめるだけです。ベグライテン世話人の方々をはじめ、読者・参加者の皆さまのご協力がないと、継続は困難です。これまで同様、引き続き、どうぞよろしくをお願いいたします。

最後に、作業に不慣れなため、誤植等がございましたら、ご容赦くださいませ。大きなお気持ちで、お見守りいただけますと、幸甚に存じます。

（文 森永智子）

### 【会報に関する連絡先】

メール：info@begleiten.org

電話：関根まで 090-9146-6667